

福祉の ひろば

目次

- みんな やさしく あずましく! 2
～福祉のまちづくり～
 - ・直市さん80歳の住宅改修日記 2
 - ・突撃!あおもり新町商店街 3
 - ・知ってますか?ユニバーサルデザイン 4
- こんな取り組みしています! 5
 - ・ほっと (青森市) 5
 - ・であいの家 あうん (岩木町) 5
- おらほの社協 百石町 6
- 私から一言 6
- 福祉やっちゅう? 7
- ソボクな疑問 7
- 第50回青森県社会福祉大会開催 8
- 県社協から 8

2001.12.1

No.2



みんな やさしく あずましく! ～福祉のまちづくり～

「青森県福祉のまちづくり推進大会」開催

11月18日、弘前文化センターで450人が参加し、「青森県福祉のまちづくり推進大会」が開催され、それぞれ相手の立場に立った理解と思いやりが最も重要なバリアフリーであることなどが話し合われました。

12月9日は障害者の日

12月9日は、「障害者の権利宣言」(1975年)が国連総会で採択された日です。国では、12月9日を「障害者の日」とし、12月3日から9日までの1週間を「障害者週間」として福祉のまちづくりの推進を図っています。



オープニングでは、手話コーラスグループ「弘前ねむの会ファミリーコーラス」が「りんご節」を披露。

なお いち

直市さん 80歳の住宅改修日記

一番多くの時間を過ごす家の使い心地は大事です。
家の中を改造してあずましく暮らしやすいように工夫している人もいます。
青森市にお住まいの佐藤直市さんの例をご紹介します。

6月 浴室の不便さを感じる

「昔の浴槽は深くて、足を持ち上げないと上がれませんでした。浴室は、天井が高く、窓も大きくて、冬は凍えるようでした」と佐藤さん。



6月 建築士の高樋さんを思い出して相談する

7月 住宅見学会に参加する

高樋さんと工事担当の竹森さんと共に、実際目で見て改修を決意。

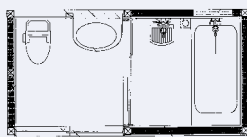
7月 トイレの改修も決意

「トイレに段差が2つもあったので、これからの事もあるし、快適にしたら?と提案しました」と工事を担当した竹森さん。



8月 設計開始

「1坪に2つのトイレと洗面所があり、以前扉が3つが重なり合う状態で狭かったので、将来のことも考えて、浴室とトイレの一体型の改修を提案しました」と建築士の高樋さん。



8月 工事開始 (約2週間経過)

完成



トイレ

人の気配でフタが自動開閉。タンクも小さく、スペースをとらない。



浴室

温風設備で浴室内はあったか。浴槽も浅く、手すりも多いので安全。



強い絆で結ばれる4人

前列が改修を依頼した佐藤直市さんご夫婦、後列左から、工事を担当した竹森さん、設計を担当した高樋さん

「住宅改修」お金の話
今回ご紹介した佐藤さんの場合は、ユニットバスを購入し、最新の設備、付属の工事で、約二百万円の工事費用となりました。
段差の解消や手すりの設置程度であれば、二十万円で、かなりの改修ができるとのこと。
介護保険が利用できる方には、「居宅介護（支援）住宅改修費」が給付されます。二十万円を限度に、原則一回限りで、本人は一部を負担します。詳しくは、「居宅介護支援事業者」または市町村介護保険担当窓口へご相談ください。

障害を持つ人も持たない人も、お年寄りも子どもも、共に支え合って、安心して快適に暮らしたい！
そんなやさしく、あずましい暮らしのためのちよっとした工夫や取り組みがあります。
家の中の不便な場所をあずましく改修した佐藤さんご夫妻、人と緑にやさしいまちづくりを長年進めている青森市の新町商店街、高齢者や障害者だけでなく全ての人にとってあずましい工夫がされたユニバーサルデザインを紹介します。

みんなやさしくあずましく！

福祉のまちづくり

突撃！ あおもり新町商店街

～しんまち探検隊出現～



A 駅前には広い駐輪場を作ったり、歩道を1mずつ広げ、自転車のスペースとしましたが、買い物客は目的地の近い場所に置いてしまいますので、対応は難しいです。

Q 歩道の自転車がじゃまです。何とか対策は。

A 移送サービスを利用することもできません。買った荷物の宅配サービスもNPOあおもり移送サービスセンターと協力して進めています。

Q 足が悪くて新町まで来られないお年寄りもいます。

A 高齢者、障害者等の「人と緑にやさしい街づくり」をコンセプトに、歩道の段差を無くしたり、電動スクーターの無料貸し出し、福祉マップの作成などしています。こうした取り組みは、NPOや障害者の団体と一緒に進めています。商店街は市民のものですから、みんなできつづいています。

Q 福祉のまちづくりの取り組みを教えてください。

A 人口や公共施設、病院が郊外に移ってしまい、一番の中心街の元気がなくなってしまう。駐車場を作るだけでは、郊外の大型店と変わらない。商店街とは、必要な時に必要な分だけ買える場所であると考えます。活性化のため、マンションを建て、街中居住を進めたり、歩き回れる回遊型商店街として、パサージュ広場を作るなどの工夫をしています。

Q 新町商店街の取り組みを教えてください。

A 人口や公共施設、病院が郊外に移ってしまい、一番の中心街の元気がなくなってしまう。駐車場を作るだけでは、郊外の大型店と変わらない。商店街とは、必要な時に必要な分だけ買える場所であると考えます。活性化のため、マンションを建て、街中居住を進めたり、歩き回れる回遊型商店街として、パサージュ広場を作るなどの工夫をしています。



大学生が直撃！
新町商店街加藤常務に聞きました

知っていますか？

ユニバーサルデザイン

障害や年齢などに関わりなく誰もが使える商品（共用品）や設備、施設などをデザインするのがユニバーサルデザインです。シャンプーとリンスの区別のためにシャンプーの側面やキャップに凹凸がついていたり、缶ビールなどに開け口付近に点字があるのもユニバーサルデザインの一つです。



アワウォッシュ

ボディ用シャンプー液や洗顔液をきめ細かに泡立て、すぐに洗浄のできる状態にする製品、高齢者や子ども、上肢障害の方に便利。

ドラエコン2 スーパーキングバージョン

好きな言葉で電源オン・オフやチャンネル切り替えができる汎用TVリモコン操作にドラえもんの声で返事もします。上肢障害、高齢者にも便利、リモコンを探す苦勞から解放。

定価5,980円

コジマで 見つけた珍商品



フレックスシンクシステム ロジック7630

電気カミソリの掃除と充電が同時に可能、細かい作業が苦手な方でも片手で簡単に掃除。視覚障害者、高齢者にも便利で、清潔快適。

定価27,200円



アイホン

玄関に行かなくても来訪者を確認、カラー映像なので弱視の方にも確認し易く、フラッシュで来訪を知らせ、聴覚障害者も来訪を確認できるすぐれもの。



(株)コジマNEW青森店

〒030-0822 青森市大野前田90-2
電話 017-762-1680

「わが社では、一〜二年前から新設する全国すべての店舗をバリアフリー適合店にしております。これも時代の流れでしょう」と西道口店長は語る。

さらに、「周辺に病院があるからか、車イスに点滴器具や、酸素ボンベのよきな装置をつけて来店する人もいますよ。また、施設の方や高齢者や障害者が家族連れでショッピングを楽しんでいます。店舗一階が駐車スペースのため、雨や雪でも車からの移動が楽だからでしょうか」とPR。

青森県福祉のまちづくり条例に基づくバリアフリー適合施設は、県内に十二カ所あります。株式会社コジマNEW青森店は、平成十二年九月に新設オープンし、県内にある店舗3カ所で、初めてのバリアフリー適合施設となりました。

青森県福祉のまちづくり条例に基づくバリアフリー適合店に認証されている株式会社コジマNEW青森店で、ユニバーサルデザイン商品を探してみました。
トイレや点字ブロックの設備はもちろん整備されていますが、商品陳列棚の配列や通りにもゆとりがあり、車イス利用者や高齢者、子どもにもやさしいお店です。



正面玄関に貼られた適合証



広々とした店内

グループ紹介

青森市

青森市障害者生活支援センター「ほっと」

今年十月から情報提供や相談業務を行なっている青森市障害者生活支援センター「ほっと」は、三つのNPOの連合体「青森福祉NPO連合 ゆうライフ」が運営。NPOでしかできない、身近な小回りの効く福祉サービスの充実を目指して、電話やインターネットを利用した事業も展開。「二十四時間受付しているので利用してください」とPRする和田代表。



連合体で運営する良さも生かしたいと考えている。「三つの団体は考えは違っても、目指すところは一緒なので、調整しながら進めています。他の関係機関や団体とのネットワークの

拠点としても活動し、結果を利用者に還元したいのです」
 「相談内容は様々ですが、自立した生活をいろんな面から応援しています。自身も以前は施設で暮らしていた経験を持つ和田代表は「アパートで一人暮らしを始めた頃は地域の理解もなく、街中の移動も建物の整備も遅れていました。現在はだいぶ生活しやすい環境になりましたね。これからは、経験を踏まえながら、公共施設だけではなく、レストランやスーパーなどのバリアフリー情報誌を発行したいですね」と夢を語る。
 「現在の社会は、障害者を「障害者」として区別してしまう社会なので、障害者も普通に暮らすための条件整備が必要だと思っています」



連絡先

〒030-0812 青森市堤町2丁目1-9
 電話 017-721-5481 ファクス 017-721-5482
 Eメール hot@mail2.networks.ne.jp

こんな取り組みをしています!

施設紹介

岩木町

知的障害者更生施設(通所) であいの家あうん

岩木町大字高屋字安田735番地3 電話 0172-82-6060



★自然のぬくもり
 「であいの家」

岩木山の麓、りんご畑のなかに木をふんだんに使った平屋の「であいの家あうん」がある。今年の一月一日に開所したばかりのぬくもりのある建物には、月々土曜日に二十人の利用者が通う。大

間は作業場所と食堂が一続きになっていて、両側の窓からはそれぞれ岩木山と八甲田連峰が望める。そして、何ととっても施設をぐるりと囲む板張りのこみせ(回廊)。「そばのりんごの木や遠くの景色を見ながら一周二百歩も歩けるんですよ」と成田施設長も自然を楽しんでいる。

★やさしい工夫

木製の自動ドアを抜けた玄関ホールは全く段差がない。三ヶ所あるトイレは、多様な障害に合わせ、便座の配置や手すりのにぎり、自動洗浄用の大きなボタンパネルなど工夫を凝らしている。調理器具や暖房などが安全のため、オール電化

設備であることも見逃せない。

★活動場所は外に

地域交流の場を大切にしており、毎週月曜日には、喫茶「ドラエモン」開いているほか、普段から、近くの喫茶店でお茶を飲んだり、買物に出かけている。八月の高屋町会夜店祭りでは、たこ焼き屋さんを出店したり、かつぱの格好をして踊る出し物を行った。「施設に何でもそろっていることはいいことではないと思うのです」と成田施設長。「活動場所を外に求めていくことで、地域住民との出会いの場が生まれ、そこから利用者の生活が広がるのです」とおだやかに話す。

★「あうん」の呼吸で

「たとえ言葉がうまく話せなくても通じるもの。それがあうんの呼吸です。利用者や保護者の方のあうん、そして地域の方のあうんを大切にしたいですね。あうんの呼吸でどんな人とも交流できる場でありたいです」と思いを語る。「近くに障害児保育の場と作業所を造り、利用者達が自分達の力で生活していけるところにしたいです」と笑顔で夢を語った。

夢は、赤くすずなりになったりんごのように実っていく。



自慢の「こみせ」で夢を語る成田施設長

おらほの社協



百石町社協では、障害者を積極的に雇用して、障害者の社会参加と交流を進めています。

■仕事はのびのび

四月にオープンした百石町福祉プラザ「のびのび館」では、障害を持つ六人が毎日交替で清掃業務をしている。「社会参加と仲間づくりのために、あえて障害をもつ人を雇いました」と三浦事務局長。「入浴や趣味を楽しむ人たちとの交流もあり、楽しんで仕事をしています」

■六人を応援するアイドル指導員

「初めて仕事を持つ人もあり、昨年一年間は作業手順を練習したり、仲間同士の交流を深めました」と指導員の沼端さん。自身も障害を持つ沼端さんは、六人のアイドル的存在。勤務シフトを作成したり、配食サービス車の運転、施設の管理をしながら、よき相談相手となっている。同僚の澤上さ

〒039-2234
百石町字堤田196-1
電話0178-50-1601
FAX0178-50-1602



「仲間たち」と「アイドル」沼端さん(後列中央)

んは「明るくて優しい彼の人柄にみんな惹かれています」と語る。「初めて仕事をするときは、人間関係や体力の不安がありますが、その壁を越えるためには、自分自身の見方を変えることも大事です。六人は、準備期間が自信につながったと思います」と沼端さんは語る。

■みんなの夢

チームワークよく仕事をこなし、仲間や地域の人とも交流が深まってきたが、「清掃業務だけでなく、それぞれの得意分野の仕事ができるようになることが夢です」とみんな目を輝かせた。

車いすユーザーの私が考える

みんなに優しい街づくり

私から一言



アルベナ情報局
車イステレビリポーター 浜中 智美

はいろんな人が気持ちよく使える、みんなの意識が高まることにより、さらに良い方向に改善されるものです。

例えば、段差があったとしても、それを解消する板があれば、誰の手も患わさせることなく、駐車場は、最低限のマナーを守り、「何のためにあるのか」「停めたら、誰かが困る」ということを理解すれば、私たちの行動範囲はもっと広がります。

さて、まだ書き足りないことが沢山ありますが、今は、障害者を「障害者」と区別しがちな社会です。が、みんな同じ地域で暮らしているのもまた事実。車いすユーザーは何も出来ないと思われてますが、ほんの少しの条件設備とちよつとした心配りで、すべての人が快適に暮らせる「住みやすい、安全で楽しい街」に近づいていくのではないのでしょうか。

まずは出来ることから少しずつ、みんな始めてみませんか？

二月からUD(ユニバーサルデザイン)ウォッチャーとして朝日放送のアルベナ情報局の車でリポーターを担当。

一人暮らしをして約一年半。車いすユーザーから見ると、バリアがとて多すぎます。それは移動の問題や(バスや電車など……)、トイレの問題、そして路上のちよつとした段差や、建物の設備と、主にハード面。もう一つのバリアは、車いす専用駐車場の使用や歩道に無造作に駐輪している自転車など、自分の都合を優先する心ない人がいることです。

リポーターの仕事をするようになり、取材でいろいろな場所や使いやすく開発された商品や多機能ファッションなどを紹介してきました。紹介した場所や商品などは、ユニバーサルデザインといって障害者・子ども・高齢者や人種・性別に関係なく、すべての人に優しい、誰もが簡単に利用できるというものです。

このように人を選ばない場所や商品

リポクな疑問コーナー

Q NPO法人になると何が得なの？

A NPOは特定非営利活動法人という、営利を目的としない社会貢献活動を行なう民間団体で、県内には現在約30のNPO法人があります。NPO法人格を得るかどうかは、その団体の活動の目的によると思います。社会的信用が高まりますし、国際社会では、必ず法人格が要求されています。しかし、NPOだからもらえる助成金もないし、収益には課税もされません。法人での賃貸契約や銀行からの融資も、活動実績が求められるので、まだ理事長個人の方が信用されています。NPOの活動の果たす役割が大きにも関わらず、同じ事業をしていても税制上の優遇もなく、資金援助も少ないのが現状です。NPOの活動を支援する体制の整備が急務です。

青森市桂木3-2-11 電話017-744-1100

代表者 有谷 昭男

青森市桂木3-2-11 電話017-744-1100

あおもり福祉データ

バリアフリー適合証取得施設数 12ヶ所

平成11年から現在までに県内12ヶ所の建物が取得しています。

- ・さわだクリニック (青森市)
- ・グループホームりんごの家 (八戸市)
- ・クローバーズ・ピア (南郷村)
- ・在宅介護支援センターハートランド (十和田市)
- ・あおもり信用金庫篠田支店、三内支店 (青森市)
- ・桜ヶ丘支店 (弘前市)
- ・ヤマイシ食専館第二問屋町店 (青森市)
- ・コジマNEW青森店 (青森市)
- ・イトーヨーカドー青森店 (青森市)
- ・金木タウンセンターノア (金木町)
- ・イオン下田ショッピングセンター (下田町)



福祉 やつちゅう？

県内にお住まいの外国人にお伺いしました

楊 狂弁 (中国・ハルビン出身)

四月に青森に来ましたが、自然のすばらしさに感動しています。日本はどこに行っても、ごみやほりが少なくきれいだし、そこに住む人たちが、自分たちのまちをきれいにしようという意識にも驚きました。

中国では、自転車に乗る人が多いので、道

路には自転車専用の道があり、段差もないので、車イスを利用する人も通ることが出来ます。お年寄りの世話は、古くから習慣で家族が当たり前に行っていました。最近では、団地で支え合う仕組みができたりと徐々に変化してきています。女性はみな仕事を持っていて、職場では、女性だけがお茶を出すということもなく平等ですし、お互い助け合う気持ちが非常に強く、家事も分担しています。日本のことも、青森のことも、もっとたくさん勉強したいと思っていますので、お茶やお花、歌舞伎などの日本の文化講座がもっと多くあるといいなと思っています。

(県環境生活部国際課 国際交流員)



青森県福祉人材センター

◇求人情報テレホンサービス Tel 017-731-1111
◇福祉の仕事・職種・資格のホームページ
<http://www.shakyo.or.jp/hot/>

「福祉の仕事に興味がある」「福祉の仕事がしたい」という方のための研修会

平成13年度福祉マンパワー研修会

マンパワーの資質向上、確保推進のための研修会です。
むつ会場 12月15日(土) 10:00~ 下北文化会館

平成13年度福祉人材育成講習会

福祉の仕事理解のための入門講座です。
12月22日(土)・23日(日) 10:00~ 県民福祉プラザほか

ご相談・お問い合わせは、

青森県福祉人材センター TEL 017-777-0012
弘前福祉人材バンク TEL 0172-36-1830
八戸福祉人材バンク TEL 0178-47-2940

地域福祉権利擁護センターからのお知らせ!! こんなことで、相談はありませんか?



Aさんのヘルパーとして関わり、半年が過ぎた頃、痴呆のあつたAさんから「あんた、通帳取ったべ!」と疑われるようになりました。家族も遠くに住んでるし、どうしたらいいの?

青森県地域福祉権利擁護センター(あっぷるハート)では、このような痴呆性高齢者や障害を持つ方の意思を尊重しながら、福祉サービス利用や日常的な金銭管理等を支援し、みんなが安心して暮らせるようお手伝いします。

連絡・問合せ先

青森県地域福祉権利擁護センター(あっぷるハート)
電話 017-721-1362

第50回青森県社会福祉大会開催



11月14日、初雪降りしき中、第50回青森県社会福祉大会が青森市文化会館で開催されました。大会には社会福祉関係者1,600人が参加し、横須賀基督教社会館館長の阿部志郎氏の記念講演と本県の社会福祉発展に功績のあった方々の表彰式典が行なわれました。

「新世紀の福祉を考える」と題した記念講演では、ものがあふれている中で、心の「豊かさ」や人に対する思いやりが忘れられている。今こそ、地域での支え合いが大切である」と阿部先生は語り、参加者に対し

て「福祉とは人と人との支えあいであるからこそ、福祉に携わることは大変尊いものであり、大きな誇りをもって活動を続けてほしい」と激励しました。



県社協から

■ 年末たすけあい運動

■ 地域で支えあうあったかいお正月
新たな年を迎える時期、援助や支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、12月1日から募金が始まります。

■ ねむのき会館

昭和48年11月のオープンから30年の歳月とともに、緑に囲まれた環境と職員の情熱でたくさんの利用者に愛されてきました。

時代の要請に応え、身体障害者に留まらず、様々な障害児・者や親子の「場」として活用されております。

- ①車いすダンス教室
毎月第1と第3土曜日
- ②アーチェリー教室
毎月第2と第4土曜日
- ③スポーツ教室
毎月第2土曜日
- ④美容教室
12月16日(日) ねむのき会館
- ⑤パソコン教室
1月20日(日) ねむのき会館

連絡先
TEL 017 (738) 5033
FAX 017 (738) 0745
Eメール nemunoki@sirius.ocn.ne.jp

● 御協力ありがとうございました(9~10月分)

■ 青森県社会福祉協議会への寄付

- ・東陶機器(株) 青森営業所様
- ・津軽高原ゴルフ場様
- ・天地 聖一様
- ・県理容生活衛生同業組合県支部様
- ・あおもりファッション協会様
- ・ユアテック福祉会青森支部長様
- ・八戸 薫子様
- ・北沢 稲子様

■ 青森県善意銀行でのお預かり

- ・日本原燃株式会社様
- ・銘茶・茶道具 成田園様
- ・富国生命保険相互会社青森支社様
- ・NTTドコモ東北青森支社様
- ・菊池 幸子様
- ・ボイスカンパニー鈴木育子様
- ・ジャズ&アップルコンサート実行委員会様

■ 発行所

〒030-0822 青森市中央三丁目20番30号
県民福祉プラザ2階
社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
TEL017 (723) 1391 FAX017 (723) 1394
<http://www.infoaomori.ne.jp/aosyakyo/>
E-mail:VC02000@em.shakyo.wamnet.wam.go.jp

■ 印刷所

株式会社コーセイ印刷

ホームページでも「福祉のひろば」をご覧くださいませ。



いろいろな人がいろいろな思いで暮らしているまちだからこそ、「みんな、やさしく、あずましく」暮らすための思いやりが大切です。今回の「福祉のひろば」には、障害を持つ人たちのいきいきとした姿と熱い思い、いろいろな工夫が集まりました。自分でも気がつかなかったことがあり、反省したり、納得したり…。みんなにやさしいまちづくりのために小さな気配りから始めてみようと思います。(Y・K)